

学校経営計画に沿って、全教育活動に取り組みます。
 学校評価 総括評価表の下位組織レベルの重点目標は、学校重点目標の実現に向け、当該年度に、特に重点的に取り組む目標です。

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

重点目標		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点目標		評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
小 学 部	【学校目標】 教育課程に基づいた指導の充実 【下位組織レベル】 重複障がいのある児童の実態に応じた教科指導の充実を目指す。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	今後もコロナ禍や子どもたちの実態によって活動の制限があるかもしれないが、地域の人材や施設を活用したり、それぞれの子どもたちに合ったICTを活用しながら、子どもたちが自分自身で選んだり、意思を伝えたりしながら様々な活動ができるような教育活動を行ってほしい。	
		① 担当する児童の個別の指導計画において「国語」(合科)の目標設定が明確になったと80%の教員が回答する。	① 学部教員の40%が「明確になった」、60%が「やや明確になった」と回答した。			② 2, 3学期の個別の指導計画の国語の評価において90%が達成となる。
		活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 合科学習を取り入れて3年目になり、教科の目標を取り入れた学習の視点が明確になってきたと思われる。担任する児童によって合科学習の実施方法に工夫が必要であったり個々の教員の捉え方に相違点があったりしたが、グループや学部の教員集団で共通理解を図ることにより、個々の教員の指導力の向上につながった。		
		①-1 研究授業による授業研究会や年間4回の全体研修に参加し、教科指導の視点を明確にする。	①-1 6月の授業研究会や夏季休業中の全体研修で、教科指導の視点を明確にすることができた。			
		①-2 学習到達度チェックリスト(Sスケール)を活用して、グループで1名の児童に焦点をあてた実態把握の結果をグループや学部の教員集団で共有する。	①-2 夏季休業中に各グループ1名のチェックリストを作成し、4名の児童の教科に関する実態を学部会で共有することができた。			
② 短期目標の設定に際して、国語科の学習指導要領の内容(小学部知的障害である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科)で目標の妥当性についてケース会で確認し、授業実践・評価する。	② 2, 3学期の短期目標を設定するケース会等で学習指導要領や目標・内容一覧(国語科等)を活用した。授業実践や授業改良の視点をグループのケース会で共有したり、目標追加・変更について検討したりできた。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 教職員の専門性の維持向上と学校組織力の強化 【下位組織レベル】 研修やコンサルテーション等により、教職員の専門性の維持向上を図ると共に、教職員間での共通理解・連携を深め、個々の生徒に応じた指導や支援を推進する。	評価指標 ① 1月に、研修やコンサルテーション、学部教職員による情報共有等の取り組みについてのアンケートを実施し、「取り組みを生徒の指導・支援に活かすことができた」という評価を中学部教職員の90%以上から得る。	評価指標の達成度 ① アンケートの結果は33%が「十分に活かすことができた」、67%が「活かすことができた」と回答した。	総合評価 (評定) A	今後もコロナ禍や子どもたちの実態によって活動の制限があるかもしれないが、地域の人材や施設を活用したり、それぞれの子どもたちに合ったICTを活用しながら、子どもたちが自分自身で選んだり、意思を伝えたりしながら様々な活動ができるような教育活動を行ってほしい。 中学部教職員が連携・協力し、学部全体で中学部生徒の支援を行うために、個々の生徒の実態や中心的課題を把握する必要があると考える。そこで、次年度は中学部生徒全員の自立活動実践シートの作成及び学部教職員間での共通理解を進めたい。作成する過程で、担任だけでなく関わる教員間での話し合い・検討により、色々な視点での気づきや支援方法の検討ができ、情報共有とともに専門性の向上が期待でき、自立活動の指導の充実にもつながると考える。
	② 学部全体の研修、学級ごとのケース会をそれぞれ年間に2回以上実施する。	② 学部全体の研修を計3回、学級ごとのケース会を2回以上実施できた。	(所見) 学部教職員で実施した3回の研修は、講義を聞くだけではなく、グループに分かれて話し合ったり、事例生徒のビデオを見て読み取りを行ったりする演習型の研修であり、具体的に環境設定を考えたり、生徒の観察についてのポイントを学んだりすることができた。そのため、日々の実践につなげやすかったと考えられる。学級ごとのケース会では、生徒の実態について、また個別の指導計画の目標や手立ての共通理解を図るとともに、個に応じた支援方法について関わる教職員間で検討することができた。学部教職員からは、さらに各教職員が連携・協力し、学部全体で中学部生徒の支援を行っていくことを望む声もあがっており、今後も連携して指導を行う体制作りに取り組みたい。	
	活動計画 ①-1 コミュニケーションの専門家によるコンサルテーションで事例検討や教職員への研修を実施し、コミュニケーションの指導に活かす。	活動計画の実施状況 ①-1 特別支援学校コンサルテーションを活用し、コミュニケーション指導の専門家を招き、対象生徒の事例検討とともに、学部教職員への演習型研修を2回実施し指導に活かすことができた。		
	①-2 生徒の「主体性」や「自発性」を高める授業作りや環境設定等をテーマとした研修や協議を行う。	①-2 学校計画訪問時に、総合教育センター指導主事を講師として、「生徒が主体性を発揮できる授業づくりについて」というテーマで、研究協議や演習を含めた研修を行った。		
	①-3 1月に中学部教職員に研修やコンサルテーション、学部教職員による情報共有等の取り組みについてのアンケートを実施し、結果を共有し今後の参考とする。	①-3 中学部教職員15名にアンケートを実施した。教職員の専門性向上や共通理解・連携を深めるための取組への提案（授業研究、得意分野での研修実施等）について学部会で共有した。次年度に活かしたい。		
② 学部会やケース会を活用し、生徒の状況や留意事項、支援方法等について教職員間での共通理解を図る。	② 学部会やケース会で、担任より生徒の健康状態や留意点等について報告し共通理解を図ることで、学部教職員が生徒の状態を把握して関わる事ができた。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【学校目標】 GIGA スクールの推進 【下位組織レベル】 ICT 機器を活用し、少人数によるきめ細やかな指導を通して「個に応じた指導」の充実を図る。	評価指標 ① 年度末に ICT 機器の活用・指導に関するアンケートを実施し「個に応じた指導の充実が図られた」また「ICTを活用し、授業力が向上した」と回答した教員が 80%以上になる。	評価指標の達成度 ① 「個に応じた指導の充実が図られた」の項目では44%が「とてもそう思う」、38%が「そう思う」と回答し、「ICTを活用し、授業力が向上した」の項目では50%が「とてもそう思う」、31%が「そう思う」と回答した。	様々な場面で ICT が有効に使われていることがわかった。 今後もコロナ禍や子どもたちの実態によって活動の制限があるかもしれないが、地域の人材や施設を活用したり、それぞれの子どもたちに合った ICT を活用しながら、子どもたちが自分自身で選んだり、意思を伝えたりしながら様々な活動ができるような教育活動を行ってほしい。	学習指導要領に謳われている ICT 機器を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けての取り組みは情報課が中心となり、個々の実態に応じた教材・教具や入力支援機器等の補助用具の工夫や活用方法の提案をすることで、一体的に充実が図られてきている。今後も一層 ICT 機器などを有効に活用して指導の効果を高めていくために、多くの教員が ICT 機器に関する知見を広く収集し、学習への効果的な活用の仕方を工夫していかなければならないと考えている。 また、次年度はより一層、教科指導における ICT 活用にも取り組んでいかなければならないと考えている。	
	② 面談や保護者アンケート等から、「高等部では ICT を活用し、生徒一人一人に合った学習教材が提供されていた」との評価が 80%以上となる。	② 通学生の保護者 8 名を対象にしたアンケートで、「高等部では生徒一人一人に合った学習教材が提供されていた」の項目では63%が「とてもそう思う」、37%が「そう思う」と回答した。			総合評価 (評定) A
	活動計画 ①-1 情報課と協力し、ICT を活用した授業の先行事例を紹介するなどして、生徒一人一人に最適な学習アプリや ICT 環境を提供する。	活動計画の実施状況 ①-1 ICT 機器活用に関し他府県等の事例紹介や市販されている『iPad 活用法のアイデア集』による学習アプリの情報提供等を行った。情報課により視線入力装置や AAC 機器を含めた最適な ICT 環境の提供やアドバイスがされた。			(所見) アンケート結果から、ICT 機器が有効に活用できたと考える。さらに ICT 機器が活用されている様子が分かったかについても尋ねたところ、連絡帳や担任との会話の中で「活用されている様子が分かった」と回答者全員から肯定的な評価だった。就学奨励費で購入される ICT 機器等についても、情報課から情報提供することで、個に応じた最適な環境を整えることができた。在宅就労で必要な要素として①所定時間勤務可能な体力 ②生活面（食事・睡眠・体のケア等）での自己管理能力③困った時には他者に SOS 発信できる力と教えていただき教員にとっても大変参考になった。
	①-2 進路指導の一環として、テレワークによる就業体験を実施し、在宅就労で必要な力について理解を深める。	①-2 1 年生 1 名が通信大手の特例子会社による 3 日間のテレワーク体験実習を行った。在宅メンバーの 5 名の社員の方達と「チーム朝礼」を行ったり「文章要約」や「偏愛マップ作成&プレゼンテーション」等の演習を行い、自分に不足しているスキルや弱みを発見し、在宅勤務の適性を判断することができた。			
② GIGA 端末や就学奨励費で購入した機器を活用しての学習状況の記録等を、参観日や面談等で保護者に見てもらおうようにして情報提供したり、キャリアパスポート作成時に、ICT 活用に関する内容を記載するようにする。	② 参観日に他の行事が重なったため、2 学期以降保護者に活用状況を見てもらう機会がなかったが、普段の取り組みの状況は連絡帳等を通して提供した。キャリアパスポートは現在作成途中である。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見			
【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 保護者とともに安全な避難体制の整備を行う。	評価指標 ① 災害時の引き渡し訓練において、児童生徒の引き渡しの手順（流れ）について、訓練に参加した保護者の80%以上から「流れがわかった」の回答を得る。	評価指標の達成度 ① アンケート結果から、「引き渡しの流れ」について57%が「よくわかった」、43%が「わかった」と回答した。	総合評価 (評定) A (所見)	不審者対応訓練では、訓練の様子を動画撮影することにより、感染症対策による分散しての研修でも、全員が動画を見ながら振り返りができたことがよかった。ICTがいろいろな場面で活用され、安心安全につながっているのがわかった。他の研修等でも動画を撮影して振り返りを行うとよいのではないかと。発災後、できるだけ早く学校再開できるように、準備を進めてほしい。	近年感染症拡大防止のために校内だけの避難訓練や研修が中心になっている。校内の設備や備品の場所、活用の仕方、発電機の作動等は毎年研修を実施し、有事に備えたい。 避難訓練は、エレベータが使えない場合、徳島赤十字ひのみね総合療育センターのスロープを使用させていただいております。階段を使って車いすを担ぎ上げたり下ろしたりする訓練は一部のみの実施になっている。車いすを担ぐ研修を積み、実際の避難訓練で車いすや抱っこ等で児童生徒全員を避難させるのにかかる時間を把握できるようにしたい。 引き渡し訓練は、有事の動きを想定して少しずつブラッシュアップしていきたい。まだ引き渡し訓練に参加できていない保護者にも参加を促し、引き渡しの手順の理解を深めていただけるよう積極的に声をかけていきたい。	
	② 防災備蓄品の活用に向けた研修会と、防災備蓄庫内の整備を行う。	② 発電機はガソリン10で約1時間発電でき、吸引器の充電にも使えることを確認した。防災備蓄庫内の整理をし、配置図を作成して物品を取り出しやすくした。また、児童生徒職員の防災バックの確認と整理を行った。				(所見) 防災備蓄品の組み立てや、発電機の動作確認の研修は有事の時に焦らず活用できるための良い研修となった。 防災備蓄庫内の整理をする中で徳島県、小松島市からの備蓄品を明確にし、充実させていく物品を把握することができた。
	活動計画	活動計画の実施状況				
	①-1 参観日に風水害避難訓練を行い、児童生徒が避難場所に避難した後に引き渡し訓練を行う。	①-1 6月7日の参観日に児童生徒が風水害の避難訓練を行った後に実施した。				
	①-2 メール受信から引き渡しまでの流れについて、訓練実施後にアンケートを行い、改善点を把握する。	①-2 引き渡しの受付を玄関で一括して行ったが、各学部の避難場所の案内と引き渡しカードの記入欄が分かりにくいという意見があがった。引き渡しカードは、欄を検討して保護者と学校側が記入しやすく分かりやすい様式に変更した。				
	②-1 保護者とともに防災備蓄品の組み立てや発電機の動作確認の研修会を行う。	②-1 8月2日にPTA防災研修会を実施予定だったが、感染症拡大防止のために教員のみで段ボールベット、間仕切り、簡易トイレの組み立てと発電機の動作確認を行った。				
②-2 校内で避難した場合、防災備蓄品が取り出しやすいかどうかシミュレーションし、備蓄庫内の配置を考察し配置図を掲示する。	②-2 備蓄品は画像をつけてリストを作成し、棚には見出しを付け、庫内配置図を作成し、備蓄品等を取り出しやすくした。					

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
【学校目標】 教育課程に基づいた指導の充実 【下位組織レベル】 本校の教育活動を整理し、教育課程に基づいた指導の充実を目指す。	評価指標 ① 個別の指導計画と年間指導計画の作成マニュアル及び様式の修正ができる。	評価指標の達成度 ① 年間指導計画の様式を見直し、各教科の目標と年間指導計画を1枚に合わせて記述することで、指導目標を明確にすることにつながった。個別の指導計画は、マニュアルを簡潔に見やすく整理し直した。様式の検討は、次年度に送る。	総合評価 (評定) A	今後もコロナ禍や子どもたちの実態によって活動の制限があるかもしれないが、子どもたちが自分自身で選んだら、意思を伝えたりしながら様々な活動ができるように学習の機会が設定できるとよい。	次年度は、本校の教育課程の見直しから4年目になる。児童生徒がニーズに合った力を身につけるためにどう指導していくかを表すための様々なツールを整え、それらを活用して日々の指導にあたることで教育課程に沿った取り組みができるようなシステムを整理することが課題である。 各教科等の指導と、それらを支える自立活動の指導をわかりやすくするために、教科指導を整理できる個別の指導計画の見直しをすすめたい。
	② 教育課程に関するアンケートの該当項目で、「本校の教育活動の流れがよくわかる、わかりやすくなった」と80%以上の教員が回答する。	② 3学期に実施したアンケートでは、ケース会や保護者懇談等個別の指導計画作成に係わる年間のスケジュールを书面化し、98%の教員が「教育活動の流れがよくわかる、わかりやすくなった」と回答した。			
	活動計画 ① 個別の指導計画、年間指導計画の様式を見直し、記入例も改訂する。	活動計画の実施状況 ① 年間指導計画は、3・4コースについても教科の目標を下部に記入するよう様式を整えた。個別の指導計画は、全校研究と連携し、次年度にかけての見直しとなったが、現行の記入例は活用しやすいように整理し、改訂した。			
	②-1 ケース会、保護者懇談の目的や方法、一年間の教育活動のスケジュールについて書面で表し、統一した取り組みができるよう全教員に説明する。	②-1 個別の指導計画に係わる教育活動の流れを書面でわかりやすくまとめ、職員会議で説明、再確認した。			
②-2 1学期末と2学期末に、教育課程に関するアンケートを実施する。	②-2 アンケートは、3学期に実施した。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 教職員の専門性の維持向上と学校組織力の強化	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	<p>地域の専門家と連携し、専門性の向上に努めてほしい。</p> <p>次年度は、自立活動研修の計画を見直しながら取り組むことが課題である。そのために、キャリアの浅い教員に対しては、学んだことが授業に反映しやすい時期に実施する、知識や技術の定着を図るために人に伝える、外部専門家の助言が活用できているか協議型の教員と確認する等を計画に含めながら実施していきたい。</p> <p>自立活動実践シートの研修では旧担任が作成した自立活動実践シートを基に行うことで、立案作成やケース検討会に役立つ研修となるように計画する。</p> <p>研修を企画する上では各教員の自立活動に関する専門性の把握が必要である。そのために、「自立活動の指導に係る力量形成に向けたチェックリスト」や「研修アンケート」等を用いて把握していきたい。</p>
	【下位組織レベル】			
「自立活動研修」と「自立活動実践シートケース検討会」を通して自立活動に関する専門性を高める。	① 「自立活動研修が指導方法や知識・技術の習得に関する専門性向上に役立った」と教員の80%が回答する。	① 自立活動研修の特別支援学校コンサルテーションでは67%が「役立った」、33%が「やや役立った」と回答した。外部専門家を活用した実践型研修では63%が「役立った」、37%が「やや役立った」と回答した。実践型研修では86%が「役立った」と回答した。	(評定) A	
	② 「自立活動研修の学びを活かすことができ、児童生徒に指導の成果が見られた」と研修を選択した教員の80%が回答する。	② 特別支援学校コンサルテーションでは67%が「見られた」、33%「やや見られた」と回答した。外部専門家を活用した実践型研修では12%が「見られた」、88%が「やや見られた」と回答した。	(所見) 専門性向上のために、これまで希望者のみで行っていた研修を体系的にパッケージ化し、OJTを取り入れながら全教員の選択に基づき実施する自立活動研修を行った。 経験の浅い教員は外部専門家を活用した実践型を選ぶことが多かった。しかし、この取組のみでは専門性向上に役立つ、児童生徒に指導の成果が見られた手応えは少なかった。一方、協議型を選択したキャリアを積んだ教員は役立ったと回答している。このことからキャリアに応じた研修計画が必要であり、キャリアの浅い教員の研修計画を長期的な視点で考える必要がある。 また、特別支援学校コンサルテーションは外部専門家の指導を2回継続的に受けることができるため、児童生徒の変容が大きいことが期待できる。今後も積極的に活用できるように計画する必要がある。 自立活動実践シートケース検討会に取り組むことは、専門性向上に役立つ結果となった。この取組は今後も継続していく必要がある。	
	③ 「児童生徒の様子から指導の成果が見られた」と、他の教員(同じ学級・HRの担任または学部長)の80%が回答する。	③ 特別支援学校コンサルテーションでは100%が「見られた」と回答し、外部専門家を活用した実践型研修では各38%が「見られた」、「やや見られた」と回答した。		
	④ 「自立活動実践シートケース検討会が自立活動の指導計画の作成に関する専門性向上に役立った」と教員の80%が回答する。	④ 担任は、78%が「役立った」、22%が「やや役立った」と回答し、担任以外で協議型研修を選択した教員は80%が「役立った」、20%が「やや役立った」と回答した。		
	⑤ 「自立活動実践シートケース検討会で作成したシートから、指導目標や指導内容等の考えに至った意図が読み取れた」と7名(管理職、学部長、指導教諭)の80%が回答する。	⑤ 69%が「意図が読み取れた」、25%が「やや読み取れた」と回答した。		
※自立活動実践シートは、自立活動の指導計画のことである。	活動計画	活動計画の実施状況		
	①②③-1 全教員が授業を通して学ぶ自立活動研修(外部専門家を活用しながら行う実践型研修と協議型研修)を実施する。	①②③-1 外部専門家を活用した実践型研修と協議型研修以外に、特別支援学校コンサルテーションや自立活動実践シートケース検討、高等部が企画・実施したICT研修を自立活動研修に加え、全教員で取り組むように実施した。		
	①②③-2 外部専門家や校内教員の活用をコーディネートする。	①②③-2 外部専門家を活用した実践型は担当者が日程調整をし、当日サポートした。校内教員の日程調整は係が行うよう計画したが、ほとんどの教員が自主的に進めていた。		
	①②③-3 自立活動研修後のアンケート結果から改善点を考え、次年度の計画立案に反映させる。	①②③-3 専門性の向上に関する効果が少ないことがわかったため、計画等を見直し反映させた。		
	④⑤-1 自立活動の指導計画の作成に関する参考資料を全教員へ配付する。	④⑤-1 定期的に参考資料を机上に配付した。		
	④⑤-2 自立活動実践シートケース検討会を企画し、運営を支援する。	④⑤-2 該当教員に校内LANの回覧板で、実施を呼びかけた。ケース会ではポイントを説明した動画を見てもらったり、課員が説明したりした。		
	④⑤-3 自立活動実践シートケース検討会で伝えたことを、全教員へ周知する。	④⑤-3 年度末の次年度の仮目標検討時に知らせた。		

【総合評価】における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 教職員の専門性の維持向上と学校組織力の強化 【下位組織レベル】 県下の特別支援学級や保育所など地域の多様なニーズに応える教育相談を行う。	評価指標 ① 各研修会において、事後アンケートで80%以上が「満足・やや満足」と回答する。	評価指標の達成度 ① 特別支援学級（肢体不自由）担任者研修会では、「大変満足・概ね満足」との回答が96%、地域別事例検討会では100%に達した。夏季公開研修会においては、「満足・やや満足」との回答が、校内外ともに100%に達した。	総合評価 （評定） A	継続して、ひのみね支援学校専門性を地域に還元して欲しい。 今年度より「地域別事例検討会」等の新たな研修会の講師を巡回相談員が担うことになり、講師を務める機会が増えた。本校は肢体不自由に特化した支援学校ではあるが、発達障がい等に関わる研修においても講義ができる知識を身につける必要性を感じた。巡回相談も発達障がい等に関わる内容がほとんどで、学校現場での困り感に対応できるだけの知識や情報を有するよう努めることが不可欠である。 今年度より「相談前シート」の内容を大きく変更したが、書きにくいとの意見が聞かれた。次年度に向けて、シートの質問事項等を再検討する必要がある。 「相談後シート」を実施したことで、相談者にとって支援方法や取り組む内容が明確になり、巡回相談員にとっては実践報告を受けやすいことアフターケアがしやすくなった。相談者からの「相談後シートが役立った」との回答が100%に達しており、大きな成果が得られたと感じている。アンケートも含め、今後も継続し、相談活動のさらなる充実に努めたい。
	活動計画 ①-1 特別支援学級担任者研修会や地域別事例検討会において講師を務め、地域の教職員の専門性の維持向上を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 特別支援学級担任者研修会では、映像にて様々な教材教具を紹介したことで、具体的な使い方等の認識が深まったと考える。地域別事例検討会では、写真入りの紙媒体資料にて姿勢保持や道具の扱い方等が難しい場合の実践例を紹介した。資料が手元に残ったことで、実践につながるという意見が聞かれた。	（所見） 本校主催の公開研修会では、校外からの参加者に対しZoomでの配信を行った。総合教育センター主催の地域別事例検討会でも、オンラインで講師を務めた。コロナ禍でも、感染症対策を行いながら充実した研修会を行うことができた。 巡回相談員活動は、昨年度と比べ、出張相談が増えた。感染症の影響により、延期を余儀なくされたこともあったが、日程を変更して実施することができた。今後も同様の状況が考えられるため、希望日を複数挙げていただく、予備日を確保しておく等の配慮が必要と考える。 また、巡回相談アンケートを実施することで、様々な意見を聞くことができた。次年度に活かしていきたい。	
	①-2 特別支援教育地域まるごと専門性向上事業の夏季公開研修会を計画・実施し、地域の教職員の専門性の維持向上を図る。	①-2 江本純造氏（作業療法士）を講師に迎え、「不器用なお子さんへの支援」についての研修会を実施した。校内教員41名と、18ヶ所の保育園、幼稚園、小・中学校、支援学校より37名の参加者があり、「具体例が多く分かりやすかった」との意見が多く聞かれた。		
	②-1 巡回相談において、「相談前シート」を使用して相談内容を明確化し、相談後には、支援方法や改善点を記入した「相談後シート」を渡しフィードバックする。	②-1 「相談前シート」では、具体的な相談場面を相談対象児1名につき3つ挙げ、課題等を明確にもらった。「相談後シート」では相談員が提案した支援方法の中から、実践できるものを4つ選択してもらい、数ヶ月間実践した後に結果を報告していただいた。		
②-2 巡回相談に関わるアンケートを実施する。 ・相談前シートの書きやすさについて ・相談前シートの質問項目について ・相談後シートの活用について ・巡回相談の効果について ・再度の巡回相談の希望について	②-2 13校（園）にアンケートを実施した（1月現在）。相談前シートの書きやすさと質問項目において、「書きにくい」「○△の判断が難しい」などの意見を得た。			

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
<p>【学校目標】</p> <p>家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進</p> <p>【下位組織レベル】</p> <p>保護者や関係機関との連携を深めるとともに、教職員のキャリア教育への意識向上を図り、児童生徒の卒業後を見据えた取り組みを推進する。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 関係機関と連携した取組を年間5回以上企画し、遂行する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 関係機関と連絡や調整をしながら、年間5回以上の行事を企画し、実施することができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p>	<p>さまざまな施設等と連携を図ってほしい。</p> <p>人権の視点を身近な枠組みから取り上げることで、学校全体の人権意識を高めていけるよう進路指導、生徒指導を関連させながら、取組を計画実施していきたい。キャリア教育については、意識を持って日々の教育活動が行われるよう、働きかけを強化していきたい。</p> <p>また保護者への情報提供を積極的にを行い、進路への意識を小学部段階から高めていけるよう進路指導の工夫、充実を図っていきたい。生徒指導に関しては、社会の状況を踏まえながらの取組を基本に、18歳で成人になる生徒の実態に応じた学びを保障していきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>② キャリア教育に関するアンケートにおいて、教員の70%以上から「意識が高まった」と回答を得る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>② アンケートの結果、教員の79%が「意識が高まった」と回答した。キャリア教育支援プログラムを全校研究で活用する機会もあり、キャリア教育へ意識を向けることができた。</p>	<p>(所見)</p> <p>一つ一つの取組において、人権教育の視点を大切にしながら、遂行することができた。また進路指導や行事を行う際には、保護者や他機関と情報交換しながら計画・実施し、連携を深めることができた。</p> <p>教職員へのキャリア教育への意識向上については、今を大切に将来へつなげていくという基本姿勢からの働きかけを行うことによって、少しずつ高まってきていると感じる。大事なことは何かを考え、今後の展望を描くことができたことは大きい。</p>	
	<p>①-1 コロナ禍における安全な実施方法を検討し、保護者や教員を対象とした研修会等を実施する。</p>	<p>①-1 感染予防対策を入念に考慮し、関係機関との調整を繰り返し、保護者の施設見学、PTA人権教育研修会(人権コンサート)研修会を実施することができた。</p>		
	<p>①-2 人権の花運動、進路学習、薬物乱用防止教室等、児童生徒の学びの場を提供する。</p>	<p>①-2 人権の花運動は全学部へ呼びかけ実施した。キャリア教育出前授業(消費者教育)、薬物乱用防止教室は、高等部1コースの生徒対象に実施した。欠席等で全員が受けられなかった学習もあった。</p>		
	<p>②-1 高等部卒業後への視点が持てるよう、教員対象の進路研修会等の機会をもちたり、情報発信したりする。</p>	<p>②-1 夏季休業中に希望者へ進路研修会を行い、本校の進路の実際や卒業生の利用する福祉サービスについて知っていただく機会となった。また、人権進路通信「花みずき」で、進路の取組を紹介した。</p>		
	<p>②-2 高等部で今年度より試行するキャリアパスポートの取組を他学部へ向けて発信する。</p>	<p>②-2 作成に向けて、目的や活用について高等部に周知した。就業体験で活用したケースがあり、まずはこのような実績を高等部で積み重ねて他学部へと広げていきたいと考える。作成時期がクラスにより様々だったので、計画的な作成に向けての説明が必要である。</p>		

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価		学校関係者の意見	
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 新しい生活様式のもとでの学校行事を企画し、活動内容を工夫しながら安全に実施する。	① 体育祭、文化祭実施後のアンケートで、保護者と教職員アンケートにおいて「安心できた」「概ね安心できた」との回答が80%以上となる。	① 体育祭、文化祭ともに「安心できた」「概ね安心できた」との回答が100%であった。それぞれの割合は体育祭保護者アンケートでは89%が「安心できた」、11%が「概ね安心できた」と回答し、教職員アンケートでは58%が「安心できた」、43%「概ね安心できた」と回答した。文化祭保護者アンケートでは75%が「安心できた」、25%が「概ね安心できた」と回答し、教職員アンケートでは62%が「安心できた」、38%が「概ね安心できた」と回答した。	(評定) A	コロナ禍や子どもたちの実態によって活動の制限があるかもしれないが、工夫をしながら学校行事の実施に努めてほしい。	体育祭や文化祭は他学部の児童生徒のを知ったり、交流ができた数少ない機会である。しかし、コロナ禍においては、直接に交わることが難しく、また、保護者の方にも直接応援をいただくことが難しい。そのような状況下で安心して参加し、児童生徒が活躍できる場が設けられるように努めたい。 体育祭のアンケートではZoom配信がわかりづらいという意見が多数見られたが、可能な限り工夫した配信をしてこのような結果だったため、Zoom配信をせず、実施できる方法がないか検討中である。文化祭でも、感染状況により午前中のみの実施となったが、今年度初めて実施した前日祭の内容が充実していたとの意見が多かったため、次年度も取り入れていきたいと考えている。 次年度の感染状況や新型コロナウイルスの5類への移行等によって今後も様々な場面で変更が余儀なくされると思われるが、その時の最善の策がとれるよう準備をしておきたい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①-1 特別活動課会で、感染対策を考慮したうえで、全校児童生徒が交流できるような活動内容を計画する。	①-1 体育祭では、道具を共有することなく参加でき、全校児童生徒が交流できるような全体種目を計画、立案した。文化祭では全校児童生徒の展示作品を興味をもって鑑賞できるような方法を計画、立案して、見学ローテーションを組んで感染対策を施した。	体育祭、文化祭ともに終日実施するように計画を立てていたが、感染状況からともに午前のみの実施となった。人数制限や内容の縮小などをすることとなったが、アンケートから体育祭、文化祭を楽しみにしている保護者が多く、無事に実施することができて良かったと思っている。 コロナ禍での体育祭、文化祭も3年目であるが、毎年、計画から実施にかけて難しさを感じる。今後も保護者や教員で協働して工夫しながら行事を行っていきたい。		
	①-2 運営委員会、職員会議等で挙げた教職員の意見を、計画や実施に反映させる。	①-2 運営委員会で児童生徒の実態に応じた改善点等の意見をいただき、修正を行った。			
	①-3 実施後に保護者と教職員にアンケートを実施する。	①-3 体育祭、文化祭の各実施日に、保護者にはアンケート用紙を配付し、帰る前にご記入いただくか、持ち帰って後日提出いただいた。教職員へは joruri のアンケートを利用した。			
①-4 アンケート結果をもとに特別活動課会で次年度に向けて内容の見直しを行う。	①-4 アンケート結果から、体育祭と文化祭の次年度の実施方法について特別活動課内で検討しているところである。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
【学校目標】 安心・安全な学校づくり 【下位組織レベル】 学校生活における安心・安全な指導の継続と徹底を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	安心・安全な教育活動を継続して実施してほしい。 教員のバイスタンダーとしての認識を更に深め、緊急時には誰もがスムーズな対応ができるような取り組みを進める。今年度取り入れた緊急放送についても見直しを図りながら、日頃からグループや学部間で話し合い、いざという時の動きをイメージしておけるように推進する。一人で問題を抱え込むことのないように相談体制を整え、安心・安全な食事指導の充実を図る。 新型コロナウイルスは、5月に感染症法上の位置付けが5類へ引き下げられるが、気を緩めることのないよう対策を呼びかけ、児童生徒の健康管理に努める。	
	① 教員・養護教諭・学校看護師が連携・協働し、緊急体制の見直しとともに実践的な訓練を2回実施して、安心・安全な食事指導を推進する。	① 緊急体制を見直し、実践的な訓練を年3回実施することができた。	(評定) A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①-1 課内で今年度の課題について話し合い、年間の計画を立てて実践する。	①-1 年度当初に児童生徒の実態と照らし合わせて今年度の課題設定ができた。	医療的ケア児が多く在籍しており、個々に応じた対応が必要である。またコロナ禍で日々緊張感が漂う中、担任、養護教諭・学校看護師が情報を共有しながら、安心・安全に食事指導を行うことができた。障がいの状態や対応が個々に違うため、複数確認を徹底して事故の未然防止に努めた。引き続き安心・安全な食事が進められるように体制や相談システムを構築しながら進めていきたい。		
	①-2 保護者からアレルギーの聞き取りを行い、児童生徒の食事指導における配慮事項を作成し、教員に周知して情報を共有する。	①-2 保護者からの情報を基に「児童生徒の食事指導における配慮事項」を作成して教員に周知した。長期休業明けには再度周知して注意を呼びかけた。			
	①-3 感染症対策を徹底し、環境設定に努め、必要に応じて見直しを図る。	①-3 給食場所の机配置や顔の向き、消毒等を徹底し、環境設定に努めた。			
	①-4 緊急対応の流れを見直し、個々の緊急対応マニュアルの作成を呼びかける。	①-4 担任と連携して緊急対応を見直し、個々の緊急対応マニュアルが作成できた。			
①-5 緊急対応訓練を計画し、事例とともに実地的な訓練を取り入れる。	①-5 小学部と高等部の事例で給食時の緊急対応訓練を実施し、クレンメの扱い方や緊急放送についても訓練を実施した。				
①-6 反省や課題をまとめて、職員会議で伝達し、緊急時における教員の意識の向上を図る。	①-6 訓練後にアンケートをとり、出てきた課題をまとめて今後の方針や注意点について職員会議で伝達した。				
【学校目標】 家庭・地域・学校が一体で取り組む教育の推進 【下位組織レベル】 地域と共にエシカルチャレンジ事業のさらなる推進をめざす。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	市内の様々な施設と連携して、イベントを企画、実施していくことで、子どもたちのことを地域の方々にも知ってもらう機会となる。行動に制限がある場合は、オンラインで参加するなどICTを活用し体験できるように工夫した取組をしてほしい。 児童生徒の理解や主体的な活動を促すため、環境教育を授業に取り入れられるような体制づくりを行う。 研修を計画する等、目標や内容を明示して教員に理解・協力を求め、SDGsの目標達成に向け、学校全体でESD教育を推進する。	
	① 年間に5回以上、地域や社会と密接に関わり、持続可能な社会の実現に向け、環境教育を充実させる。	① ユネスコ研究大会での発表をはじめ、エシカル作品展示を7回、エシカル啓発活動を2回(うち1回はオンライン)行い、地域と連携して環境教育を推進できた。	(評定) A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	①-1 ユネスコ委員会や「ひのみねエシカルの日」の校内放送を通して、ESD(持続可能な開発のための教育)について考える機会を持つ。	①-1 ユネスコ委員会で節電節水を呼びかけるポップを作成して校内に掲示した。校内放送ではSDGsに関する本校の目標や取り組みを発表できた。	新型コロナウイルス感染症予防のため、予定していた地域での啓発活動が縮小されたが、オンラインや展示開催等、時代に合わせた取り組みを工夫しながら進めることができた。広報活動の範囲が昨年度よりも広がり、ワクチン支援への協力者が毎年増加傾向にあり、本校の取り組みが地域に根付いていっていると感じる。次年度も教員、保護者、地域のつながりを大切にしながら取り組みを発展していきたい。		
	①-2 外部の関係機関と連携し、地域イベントへの参加や啓発活動について計画し、実践する。	①-2 青年会議所や産直市場等の地域機関と連携し、作品展示や啓発活動を計画的に進めることができた。			
	①-3 学部会を通してゴミ0運動を推進し、社会参画の機会を設定する。	①-3 各学部でゴミ0運動の日を設定して、地域の環境美化に努めることができた。			
	①-4 ペットボトルキャップや書き損じハガキの回収を呼びかけ、集まったキャップやハガキを外部機関に届ける。	①-4 新たなペットボトルキャップの回収先とつながり、年2回キャップを届け、感謝状をいただいた。			
①-5 啓発チラシやISO通信、ホームページを通して、継続して家庭や地域とつながり、取り組みを発展させる。	①-5 児童生徒が作成したポスターや活動の様子を啓発チラシやISO通信、ホームページで発信し、取り組みを広げた。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった

令和4年度 学校評価 総括評価表

徳島県立ひのみね支援学校

自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
【学校目標】 GIGA スクールの推進 【下位組織レベル】 GIGA スクール学習者用端末を含めた ICT 機器を活用した授業を推進する。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	コロナ禍で、外へ出での体験的活動の機会が減っている現状があると思う。VR 等を活用して子どもたちに体験してもらいことも可能ではないか。コミュニティ・スクールを活用して、企業等と連携して技術を提供してもらいなどすると、さらに子どもたちに使えるテクノロジーを増やすことができるのではないか。 アシスティブテクノロジーと ICT の両側面から児童生徒の現実的な QOL を向上できるように事前研究や調査、開発に努めたい。またノウハウ等を継承していきながら、一つ一つ好事例をかたちづくり、いずれは学校全体の学習 QOL をアップしていきたい。	
	① GIGA スクール学習者用端末を含めた ICT 機器を用いた取り組みを全クラスで行い、ICT ポートフォリオに、その活用事例を掲載する。	① GIGA スクール学習者用端末を含めた ICT 機器を用いた取り組みを全クラスで行い、ポートフォリオ化することができた。ポートフォリオの統合化、パワーポイント変換等を行い更なる情報の共有化の環境を整えた。	(評定) A		(所見) ICT の授業活用は、クラスによっては授業展開や教員数により、撮影記録が物理的に難しいケースが多々あり、ポートフォリオ等の記録の仕方については、再検証を要する。一方、デジタル教材の作成については、相談や要望があったクラスには情報や教材の提案・提供を行いながら、協働して教材配備・作成を行うことができた。その中のいくつかは、児童生徒にかなり特化した授業環境を提案・提供することができた。このような事例をもっと増やしていくことが今後のテーマである。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①-1 GIGA スクール学習者用端末のアクセシビリティ機能について、校内研修を開催し、本校の児童生徒に応じた ICT 活用の技術・情報を提供する。	①-1 校内研修にて iOS のアクセシビリティ機能及びセッティング方法等の研修を行った。また、入力デバイスに関する情報等も提供した。			
	①-2 各教員及び保護者等からの相談に応じつつ、各児童生徒に応じた、ICT を活用した授業研究や教材開発を協働で行う。	①-2 各学部及び保護者等の相談に応じ、児童生徒に応じた入力デバイス及び教材の開発・提供を協働で行った。			
①-3 外部講師の招聘、あるいはリモート研修等で指導助言を得、加除修正を行いつつ ICT 活用の授業展開を行う。	①-3 今年度の取り組みについて資料をまとめ、3月14日に香川大学坂井教授によるリモート研修等を行い、今後の ICT の授業展開について指導助言を得る予定である。				
①-4 ICT 活用の際して、設定方法や留意点等、実務面でのノウハウや教材サンプルを格納していくライブラリを構築する。	①-4 校務サーバー内に教材を格納するフォルダを作成し全クラス格納した。また、研修等で作成したアクセシビリティの設定等、ICT 関連のファイルも同ディレクトリ内に閲覧可能な状態にした。				

【「総合評価」における「評定」の基準】 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった